

虐待対策（SCAN）チームの活動報告 ～SCAN 発足から振り返ってみて～

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 医療安全推進室）

川勝 伸也 廣瀬 慶典

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院）

森 一樹

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 地域医療連携室）

榎木 徳子 藤田 美幸

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 診療部）

岡野 創造 里 輝幸

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 看護部）

鈴木 真美 西木 小百合 田中 好美 前田 一枝

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 薬剤科）

藤田 博巳

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 事務局）

内田 幸一

要 旨

虐待（疑いを含む）被害者を発見した際には、医療従事者に求められる責務を果たす必要がある。平成26年7月に虐待対策（suspected child abuse & neglect：SCAN）チームが発足し、実績を重ねてきた。発足4年が経過し、被虐待者の発見に係わる精度向上と被虐待者救助の質的向上を図るために、新たな活動に取り組み始めている。

SCANチームの使命は、虐待の可能性をピックアップできる仕組みをさらに整え、医療機関で働くスタッフが虐待の可能性を見抜く力を養うことである。そして、児童相談所など行政への通告は、子どもや高齢者など弱者を守りその家族を支援する第一歩であるという啓蒙活動をさらに進めていくことであると考える。

（京市病紀 2019；39(1)：25-27）

Key words：SCAN, 虐待

はじめに

近年、少子高齢化や社会環境の変化に伴い、家族の担う福祉的機能が衰退しつつある。核家族化の進展とともに第三者の支援や介在が当たり前となり、家庭内の問題が社会化し、特に家庭内の虐待が露呈するようになってきた。

厚生労働省によると、平成20年～平成27年の8年間で、虐待を受けて亡くなった子どもは408人（無理心中を除く）に達する。換算すると週に1人の子ども達が虐待により命を落としているという痛ましい現状がある。

これら虐待に対する法律が整備され、虐待（疑い含む）被害者を発見した際には、医療従事者に求められる責務を果たす必要がある。

これらの背景を踏まえ、当院でも平成26年7月に児童・高齢者・障害者に対する虐待やDVに対応する虐待対策（suspected child abuse & neglect：SCAN）チームを発足した。今回、SCANチームの活動報告を通して、

社会における当院の役割やチームの今後の方向性について述べる。

目 的

当院におけるSCANチーム活動を報告し、当院の役割やチームの今後の方向性についての認識を共有する。

内 容

平成26年SCANチーム発足以降、DVや虐待（疑いを含む）の報告件数は増え続け、現在は発足当初に比べ約4倍となっている（図1）。

当院の平成29年度の実績では、DV17件、児童虐待32件、高齢者虐待8件、障害者虐待1件であり、虐待事例の55%が児童虐待である（図2）。

児童虐待（疑いを含む）で、児童相談所に通告した事例は20件（63%）、そのうち乳児院等に職権一時保護し

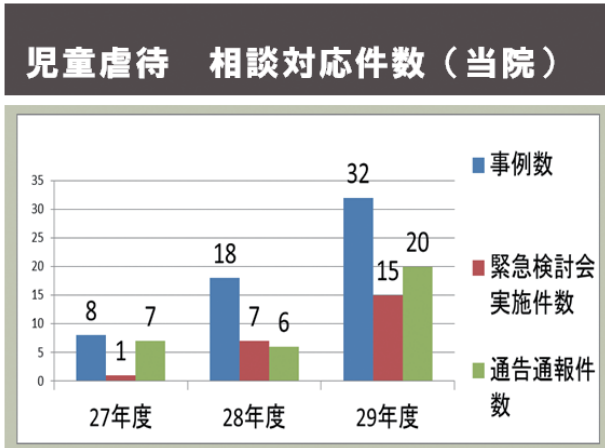


図1

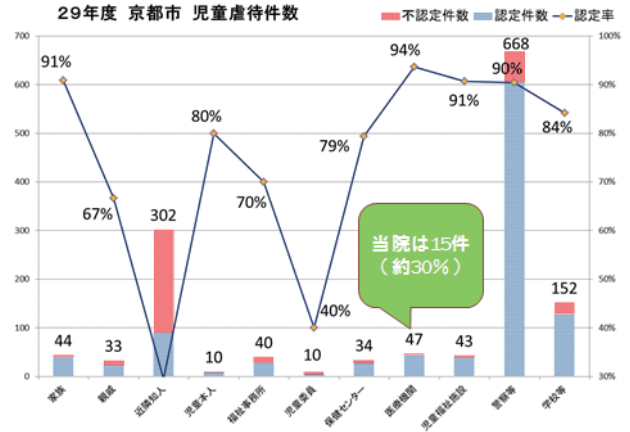


図4

虐待(疑い)事例件数

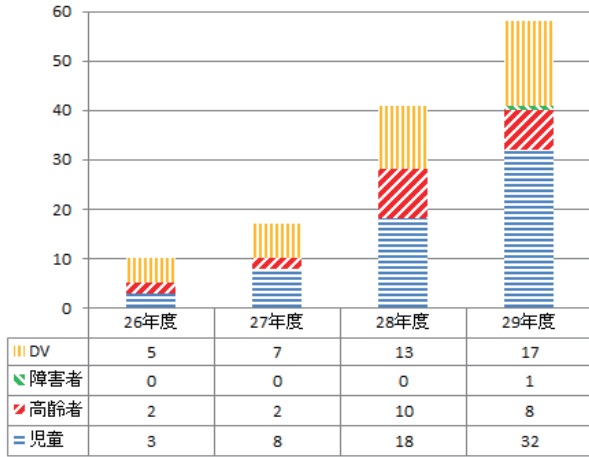


図2

通告・通報した虐待(疑い)事例件数

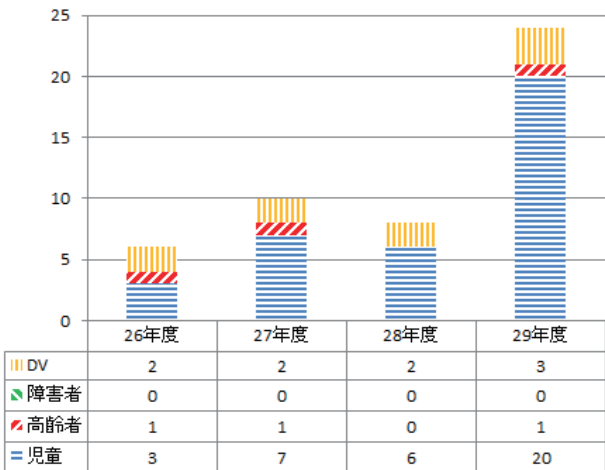


図3



図5

た事例は2件であった(図3)。

当院からの児童虐待通告は、京都市内医療機関からの虐待通告件数のうち、実に30%以上にも達している(図4)。

具体的な取り組みとしては、平成29年度は、日本子ども虐待医学会が認める医療機関向け虐待対応啓発プログラム(BEAMS)の研修を当学会の協力を得て開催した。近隣の医療機関をはじめ、警察、消防の職員等、多数の参加者があった。SCANメンバーは、適宜、日本子ども虐待医学会等の学会に参加し学びを深め、また個別にBEAMS研修も受講している。

平成30年6月には、生後1ヶ月の児童虐待事例について、関係機関の職員参加のもと虐待対策研修会を開催した。本事例に対するそれぞれの機関の活動内容を振り返り、ディスカッションを行った。

SCANチーム発足後4年が経過した今年度、被虐待者の発見に係わる精度向上と被虐待者救助の質的向上を図るために、新たな活動に取り組み始めている。例えば、虐待防止に係る考え方や法律等は年々変化しており、それに合わせるために当院の虐待対策マニュアルの全面改訂を行っている。

通告に対して消極的な考えを持つ職員もおり、通告に対する認識が職員間で異なることを問題と捉え、主に小児科や産婦人科病棟のスタッフ向けに正しい知識を持ってもらうため「虐待予防とケア」という学習会を実施した。

また、DVに悩む方向けのパンフレットを地域医療連携室前と救急室のトイレ内に配架している(図5)。

今後は、虐待を見逃さないように全身を網羅できる複数部位のレントゲンオーダーの作成等、精度と質にこだわる活動を展開していきたい。

おわりに

通常家庭という密室で行われる虐待に対し、医療機関

への受診の場は得難い接点の一つであり、支援に繋げる一度しかないチャンスかもしれない。

私たちSCANチームの使命は、虐待の可能性をピックアップできる仕組みをさらに整え、医療機関で働くスタッフが虐待の可能性を見抜く力を養うことである。そして、児童相談所など行政への通告は、子どもや高齢者など弱者を守りその家族を支援する第一歩であるという啓蒙活動をさらに進めていくことであると考えます。

Abstract

Activity of the Suspected Child Abuse and Neglect (SCAN) Team Review of the Activity from the Start of the SCAN Team

Shinya Kawakatsu and Yoshinori Hirose

Medical Safety Promotion Room, Kyoto City Hospital

Kazuki Mori

Kyoto City Hospital

Tokuko Sawaragi and Miyuki Fujita

Regional Medical Collaboration Room, Kyoto City Hospital

Sozo Okano and Teruyuki Sato

Clinical Department, Kyoto City Hospital

Mami Suzuki, Sayuri Nishiki, Yoshimi Tanaka and Kazue Maeda

Department of Nursing Kyoto City Hospital

Hiromi Fujita

Department of Pharmacy, Kyoto City Hospital

Kouichi Uchida

Administrative Office, Kyoto City Hospital

When we find a victim (including suspected victim) of abuse, we are obligated to act as a medical professional. The Suspected Child Abuse and Neglect (SCAN) team was established in July 2019 and has been producing results. A new approach was started to improve the accuracy of finding victims of abuse and supporting their rescue.

The mission of SCAN is to prepare the structure of finding any possibility of abuse, and to improve the ability of the staff at medical facilities to find victims of abuse. It is important to increase the awareness that reporting the incidences to child support centers and to the administrative organizations is the first step to protect the socially disadvantaged people including children and elderly citizens and to support their families.

(J Kyoto City Hosp 2019; 39(1):25-27)

Key words: SCAN, Abuse